

自分たちのまちは自分たちで守る



筑西市長

須藤 茂

宮川 昌己

筑西市消防団長



平成6年 下館市消防団 分団長
平成17年 筑西市消防団 本部副団長
平成18年 筑西市消防団 副団長
平成29年 筑西市消防団 団長

あけましておめでとうございます。
今月号では、新春特別企画として、令和元年秋の褒章で藍綬褒章を受章された、筑西市消防団長宮川昌己さんと須藤茂市長の対談を紹介します。
宮川さんは自分の仕事を持ちながら、災害発生時には現場に駆け付け、地域の安心・安全を守るため活躍されています。

自分の故郷を守るため 消防団に入団

市長…まずは、この度の藍綬褒章の受章、誠におめでとうございます。
宮川…ありがとうございます。大変光栄に思います。

市長…受章のきっかけには、さまざまのご苦労があったかと思えます。本日は、これまでの活動は

もちろんのこと、これからの消防団について伺えればと思っております。宮川さんが消防団に入団したきっかけとは何だったのでしょうか。

宮川…私が入団したきっかけは、お世話になっていた先輩方から誘われたことです。当時は火災が多く、自分の故郷を守るため

に何かしたいという思いがありました。

市長…入団から40年近く消防団員として活動され、今も変わらない熱い思いをお持ちだと思います。長い経験の中でも特に印象に残っていることはありますか。

宮川…やはり大きな災害が記憶によみがえります。昭和57年11月に下館地区で発生した工場での火災、昭和61年8月の台風10号による大洪水、平成22年3月に発生した東日本大震災、そして記憶に新しい平成27年関東・東北豪雨などです。特に、昭和61年の大洪水は私が入団して5年目のときで、救助活動や排水作業などを行い、5日間ほど家に帰れなかったことを覚えています。

災害発生時に消防団 としてできること

市長…先日の台風19号の際にも、消防団のみなさんには懸命に活動していただきました。

宮川…筑西市の消防団は水防団も兼ねていますので、水害が発生した場合も出動します。今回も、住民に避難を呼びかけるなどの活動を行いました。

市長…今後も大規模な自然災害が予想されますが、災害が発生したときは消防団の存在が際立ってくると思います。

宮川…大規模災害が起きた場合、消防団は消火活動、救助活動、危険箇所の警戒活動などを行います。活動するうえで、住民の生命・財産を守ること、これが一番大事だと思っています。し





消防団の活動で一番大事なことは 地域住民の生命・財産を守ること

かしながら、避難を呼びかけてもなかなか避難してくれない。もちろん消防団として救助活動は行いますが、避難指示・避難勧告が発令された場合は、早めに避難するようお願いしたいです。自分の命は自分で守るということも大事だと思います。

市長…さまざまな活動をするには団員の人数も必要になると思います。最近はなり手がいない

という話も聞きますね。

宮川…筑西市消防団の団員数は、ここ数年820人前後で推移しています。大幅な減少はみられません。市長がおっしゃるように、なり手がいないということとは言えていると思います。その背景として、かつての団員の職業構成は農家や自営業が中心で、今は勤めに行く人が多くなってきたことがあげられます。勤

務先が遠いと活動も制限されてしまいます。

これからの消防団に必要なこと

市長…社会情勢の変化というところと比べて住宅の立地状況や道路なども変わってきています。また、運転免許にも変化がありました。

宮川…入り組んだ住宅街や狭い

災害現場で迅速で安全に消火活動を行うことや組織の団結力を高めることを目的に、「消防ポンプ操法競技大会」が毎年開催されています。今年は第29分団(大村地区)、第30分団(上野地区)が、約4か月間の訓練を積んで出場しました。

【出場選手】 (敬称略)

指揮者：赤城 智之 (海老ヶ島) 1番員：池澤 春光 (中上野)

2番員：和具 禎之 (海老ヶ島) 3番員：遠藤 恒生 (中上野)

4番員：坪松 貴将 (海老ヶ島) 補助員：林 佑一郎 (中上野)

場所での災害で、迅速に対応するためには、機動力の強化が必要です。昨年度に整備していただいた消防ポンプ自動車は、コンパクトになったにもかかわらずポンプ性能は維持しており、狭い道でも現場近くまで入っていけるので、団員たちも安心して運転できるようです。車両の総重量が3.5トン未満になっているので、普通免許でも運転できるようになっていきます。

市長…住宅に使われている材料も変わってきているし、免許の種類については、AT限定の人も多くなっています。そういった状況に対応するためには、老



大地震が発生したことを想定し、筑西消防署員の指導のもと、救助訓練を行う消防団員。下敷きになった人に声をかけて不安を取り除き、圧迫している部分を的確に持ち上げます。

若男女が総合的に使える消防ポンプ自動車や装備品が必要です。実際の現場で活躍する消防団員の意見をよく聞き、整備していきたいと思っています。

未来を担う子どもたちへのメッセージ

市長…最後になりますが、筑西市の未来を担う子どもたちにもメッセージをお願いします。

宮川…私は、筑西市の風景や人々が大好きです。子どもたちにもこのまちを好きになってもらいたい。この先成長して大人になっても好きであり続けてほしい。

いです。そして、大好きなまちをずっと守っていくためにはどうしたらいいのか考えてもらって、その結果、「自分たちのまちは自分たちで守る」ために、消防団に入団し、地域のために活動してもらえたら、こんなにうれしいことはありません。

市長…自分の仕事を持ちながら、災害が発生した場合には現場に駆け付け活動する。消防団の存在というのは非常にありがたいものです。今後も、市民の生命・財産を守るため、活動していただければ幸いです。本日はありがとうございました。